

報告第10号

株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類の提出について
株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり提出します。

令和6年7月24日提出

佐野市長 金子 裕

理 由

株式会社どまんなかたぬまから、別紙のとおり経営状況を説明する書類が提出されたので報告するものです。

参 考

地方自治法抜粋

（財政状況の公表等）

第243条の3 …省 略…

2 普通地方公共団体の長は、第221条第3項の法人について、毎事業年
（株式会社どまんなかたぬま）

度、政令で定めるその経営状況を説明する書類を作成し、これを次の議会に提出しなければならない。

3 …省 略…

地方自治法施行令抜粋

（法人の経営状況等を説明する書類）

第173条の5 地方自治法第243条の3第2項に規定する政令で定める
その経営状況を説明する書類は、当該法人の毎事業年度の事業の計画及び
決算に関する書類とする。

2 …省 略…

令和6年度

(株) どもんなかたぬま
事業計画書及び収支予算書

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

【株式会社どもんなかたぬま】

令和6年度株式会社どまんなかたぬま事業計画書

令和6年度の日本経済は、コロナ禍からの経済活動正常化に伴い、緩やかな回復基調はあるものの、外需が伸び悩み、内需の弱さが目立ってきています。

約30年ぶりとなる高水準の賃上げが行われたが、賃金上昇は物価上昇に追い付いておらず、実質賃金の減少が続き、個人消費は力強さに欠いている状態です。

このような状況において、「これまでにない」をコンセプトに、更に高付加価値、高粗利の商品構成を強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を引き続き追求して参ります。

自社商品の開発及び販売。他店舗、他企業とのコラボレーションで付加価値の高い商品、メニューの開発及び販売を行います。

果物類の名産地との取引を強化し、品質の良い、他店では真似のできない品揃えを目指します。

原材料の見直しの他、知恵と工夫を凝らし、利益率の改善を行い、更なるキャッシュフロー経営に向けて取組みます。

DX化を図り、業務遂行における生産性を上げ、従業員のスキルアップ及びお客様とのコミュニケーションの質の向上に注力して参ります。

施設面において、老朽化の改善を随時行うとともに、不採算店舗の撤退や業態変更など時代の変化に対応した店づくりを行います。

他社よりも競争力のある顧客体験価値を提供する為に農産物直売所「朝採り館」の全面リニューアルを計画し、実行いたします。

生産者の高齢化と気候変動における農作物の不作問題解決の為に、自社農園設立に向けてプロジェクトを立ち上げます。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体とSNSでの情報発信を強化。アナログとデジタルの両面で、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施致して参ります。イベント企画も「体験」をモチーフに様々なジャンルの「遊び」を企画し、取り入れて参ります。

人材確保やモチベーション向上を目的とし、従業員に対しては、賃上げを実施。従業員は一律5%アップ、時間給は一律1,100円に設定します。

このような取り組みを行い、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取組む所存でございます。そして名実ともに「日本一の道の駅」へまた一歩近づく為に、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度 株式会社 どまんなか たぬま 営業収支予算書

(単位 千円、%)

			2024年度予算	2023年度予測値	前年比	前年増減	
経常損益	営業損益	営業収益	売上高	1,800,000	1,710,000	105.3%	90,000
			売上原価	1,224,000	1,179,000	103.8%	45,000
			売上利益	576,000	531,000	108.5%	45,000
			計	576,000	531,000	108.5%	45,000
		営業費用	人件費	280,000	266,000	105.3%	14,000
			消耗品費	11,000	10,000	110.0%	1,000
			地代家賃	1,000	570	175.4%	430
			保険料	7,500	7,300	102.7%	200
			保守修繕費	9,000	7,000	128.6%	2,000
			リース料	21,000	21,000	100.0%	0
			租税公課	6,000	5,600	107.1%	400
			減価償却費	16,000	15,000	106.7%	1,000
			旅費交通費	10,000	9,000	111.1%	1,000
			通信費	2,500	2,300	108.7%	200
			水道光熱費	63,000	58,000	108.6%	5,000
			支払手数料	21,000	19,500	107.7%	1,500
			どまんなかカードボーナス	4,500	4,000	112.5%	500
			広告宣伝費	19,000	16,500	115.2%	2,500
			接待交際費	2,000	1,500	133.3%	500
			清掃費	14,000	13,000	107.7%	1,000
	運賃	1,000	700	142.9%	300		
	雑費	75,000	71,030	105.6%	3,970		
	計	563,500	528,000	106.7%	35,500		
	営業損益			12,500	3,000	416.7%	9,500
	営業外損益	収益	雑収入	16,000	14,000	114.3%	2,000
			太陽光売電収入	44,000	44,000	100.0%	0
計			60,000	58,000	103.4%	2,000	
費用		雑支出	36,000	34,000	105.9%	2,000	
		計	36,000	34,000	105.9%	2,000	
営業外損益			24,000	24,000	100.0%	0	
経常損益			36,500	27,000	135.2%	9,500	

第 2 1 期

事 業 報 告 書

(令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日まで)

株式会社 どまんなか たぬま

栃木県佐野市吉水町 3 6 6 - 2

事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

令和5年度の日本経済は、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へ移行したことなどを受け、対面型を含むサービス消費も拡大しつつあり、インバウンド需要も回復するなど経済活動は正常化へ向かう動きが進み、緩やかな回復基調を維持いたしました。

しかしながら、海外情勢では長引くロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、中東情勢の緊迫化や中国の景気減速等、今後の景気回復の影響を懸念する材料が山積しており、先行き不透明な状況下が続きました。

このような状況において、「また来なくなる道の駅」を目指して、高付加価値、高粗利の商品構成の強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を行いました。

販売部門では、お取引先様と販売手数料改定の交渉や適正な価格設定で利益率を改善しました。生産性向上を目的としたDX化を進め発注作業のタイムロス軽減を実施しました。

飲食部門では、付加価値を付けたメニュー構成の変更と共に価格の見直しを実施しました。

製造小売部門では、原材料と価格の見直しを実施。オリジナル「プリン」の開発及び販売を行いました。

施設面において、「さのまる」のフォトスポットと「いもフライ」のモニュメントを設置し、集客の為の話題づくりを行いました。

イオンモール小山店に出店した食パン専門店の営業を終了し、不採算店舗の撤退に向けて交渉を進めました。

広報において、公式ホームページのリニューアルを実施しました。部門ごとに最新情報をSNSで発信。動画を使用した情報発信も行い、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施しました。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体戦略をデジタルとアナログの両面で実施しました。

イベントでは、4年振りに「怪談 お化け屋敷」を開催。多くのメディアにも取り上げられ、入場者は9,250名で、過去の記録を更新しました。

物販イベントでは、北海道、九州の人気ご当地フェアの他、青森、秋田、岩手、宮城など東北を中心とした県単位の各アンテナショップと提携し、物産品フェアを定期開催しました。

企業価値を高める為にCI（コーポレートアイデンティティ）とVI（ビジュアルアイデンティティ）を構築。CIとして企業理念や企業目標を更新し、それに基づいた行動指針を設定しました。

VIとして、「道の駅どまんなかたぬま」のロゴデザインを更新し、明るく親しみ安さをアピールできるものにしました。

人材確保やモチベーション向上を目的とし、従業員に対しては、賃上げを実施。従業員は一律3%アップ、時間給は一律1,000円に設定しました。

このような施策を鋭意努力して行って参りまして、令和5年度の営業成績は、総売上高1,714,529千円（前年比103.8%）前年に対して62,977千円のプラス。

営業利益は7,481千円（前年比136.5%）前年に対して28,002千円プラス、経常利益34,051千円（前年比230.5%）前年に対して19,279千円プラス。

今期は、増収増益の結果で終了いたしました。

(2) 会社が対処すべき課題

令和6年度の日本経済は、コロナ禍からの経済活動正常化に伴い、緩やかな回復基調はあるものの、外需が伸び悩み、内需の弱さが目立ってきています。

約30年ぶりとなる高水準の賃上げが行われたが、賃金上昇は物価上昇に追いついておらず、実質賃金の減少が続く、個人消費は力強さに欠けている状態です。

このような状況において、「これまでにない」をコンセプトに、更に高付加価値、高粗利の商品構成を強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を引き続き追求して参ります。

自社商品の開発及び販売。他店舗、他企業とのコラボレーションで付加価値の高い商品、メニューの開発及び販売を行います。

果物類の名産地との取引を強化し、品質の良い、他店では真似のできない品揃えを目指します。

原材料の見直しの他、知恵と工夫を凝らし、利益率の改善を行い、更なるキャッシュフロー経営に向けて取り組みます。

D X化を図り、業務遂行における生産性を上げ、従業員のスキルアップ及びお客様とのコミュニケーションの質の向上に注力して参ります。

施設面において、老朽化の改善を随時行うとともに、不採算店舗の撤退や業態変更など時代の変化に対応した店づくりを行います。

他社よりも競争力のある顧客体験価値を提供する為に農産物直売所「朝採り館」の全面リニューアルを計画し、実行いたします。

生産者の高齢化と気候変動における農作物の不作問題解決の為に、自社農園設立に向けてプロジェクトを立ち上げます。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体とSNSでの情報発信を強化。アナログとデジタルの両面で、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施致して参ります。

イベント企画も「体験」をモチーフに様々なジャンルの「遊び」を企画し、取り入れて参ります。

人材確保やモチベーション向上を目的とし、従業員に対しては、賃上げを実施。従業員は一律5%アップ、時間給は一律1,100円に設定します。

このような取り組みを行い、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取り組む所存でございます。そして名実ともに「日本一の道の駅」へまた一歩近づく為に、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2.会社の概況（令和6年3月31日現在）

(1) 主要な事業内容

当社は主として次の事業を営んでおります

- ① 道の駅施設の管理運営
- ② 小売業並びに飲食業

(2) 株式の状況

- ① 株式の総数 2,256 株
発行済株式数 614 株
- ② 株主数 7 名
- ③ 株主

株 主 名	当社への 出資状況		当社の大株主 への出資状況	
	所持 株式数	持株 比率	所持 株式数	持株 比率
佐野市	500 株	81.4%	—	—
佐野農業協同組合	40 株	6.5%	—	—
佐野市あそ商工会	20 株	3.3%	—	—
佐野信用金庫	20 株	3.3%	—	—
株式会社足利銀行	20 株	3.3%	—	—
株式会社群馬銀行	10 株	1.6%	—	—
みかも森林組合	4 株	0.6%	—	—

(3) 自己株式の取得、処分等および保有

【取得株式】

記載すべき事項はありません。

【処分株式】

記載すべき事項はありません。

【保有株式】

普通株式 株式会社足利銀行 10,000 株
保有価格の総額 4,200 千円

(4) 主要な借入先

(令和6年3月31日現在)

借入先	借入額 (千円)	借入残高 (千円)	借入先が有する当社の株式の数及び議決権比率	
足利銀行 田沼支店	800,000	407,611	20 株	3.3%
足利銀行 田沼支店 社債	50,000	30,000		
佐野信用金庫 田沼支店	20,000	20,000	20 株	3.3%
みずほ銀行 足利支店	50,000	22,550	0 株	0%
日本政策金融公庫	100,000	70,560	0 株	0%

(5) 企業結合の状況

記載すべき事項はありません。

(6) 従業員の状況

(令和6年3月31日現在)

	正社員	嘱託	パートナー	アルバイト	派遣	合計
男子	12	4	3	7	0	26
女子	11	1	49	13	1	75
計	23	5	52	20	1	101
内、外国人	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)

※パート従業員の事を弊社では「パートナー」と読んでいます。

(7) 事業所

本店：栃木県佐野市

小山店：栃木県小山市（イオンモール小山店専門店街1階）

(8) 取締役及び監査役

(令和6年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役社長	篠原 敏秀	株式会社 どまんなか たぬま
取締役	松本 常治	佐野あそ商工会
取締役	上岡 幸宏	佐野市
取締役	佐瀬 芳治	佐野農業協同組合
取締役	相子 正幸	みかも森林組合
監査役	石原 一行	司法書士

(令和6年3月31日現在)

(単位：円)

5

損 益 計 算 書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
【 売 上 高 】		
売 上 高	1,706,440,224	
販 売 手 数 料	7,950,772	
施 設 使 用 料 収 入	138,104	1,714,529,100
【 売 上 原 価 】		
期 首 棚 卸 高	8,474,904	
仕 入 高	1,026,428,360	
当 期 製 品 製 造 原 価	155,842,292	
合 計	1,190,745,556	
期 末 棚 卸 高	11,183,666	1,179,561,890
売 上 総 利 益		534,967,210
【販売費及び一般管理費】		527,485,605
営 業 利 益		7,481,605
【 営 業 外 収 益 】		
受 取 利 息	2,343	
受 取 配 当 金	116,000	
雑 収 入	59,865,613	59,983,956
【 営 業 外 費 用 】		
支 払 利 息 割 引 料	3,495,388	
減 価 償 却 費	28,763,346	
現 金 過 不 足	401,088	
太 陽 光 保 守 修 繕 費	754,000	33,413,822
経 常 利 益		34,051,739
【特 別 損 失】		
決 算 賞 与	3,791,050	3,791,050
税 引 前 当 期 純 利 益		30,260,689
法 人 税 住 民 税 事 業 税		10,348,200
当 期 純 利 益		19,912,489

個 別 注 記 表

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日

株式会社 どまんなか たぬま

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

[資産の評価基準及び評価方法]

棚卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・仕掛品・製品・・・・・・・・最終仕入原価法

商品・貯蔵品・・・・・・・・最終仕入原価法

[固定資産の減価償却の方法]

有形固定資産・・・・・・・・建物、建物付属設備、構築物は定額法、
それ以外は定率法により減価償却している。

[収益及び費用の計上基準]

収益は実現主義、費用は発生主義により計上している。

[その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項]

①消費税等の会計処理

税抜方式で計上している。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

[発行済株式の種類及び総数に関する事項]

発行済株式

614 株

[配当に関する事項]

当事業年度に行った剰余金の配当に関する事項

令和 5 年 6 月 23 日の定時株主総会

配当金の総額 1,535,000 円

1 株当たり配当金 2,500 円

配当基準日 令和 5 年 3 月 31 日

効力発生日 令和 5 年 6 月 23 日

株主資本等変動計算書

株式会社　どまんなか　たぬま

自　令和　5年　4月　1日

至　令和　6年　3月　31日

(単位：円)

	株 主 資 本							純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金			
当期首残高	30,700,000			4,551,500	316,844,522	352,096,022		352,096,022
当期変動額								
剰余金の配当				153,500	△1,688,500	△1,535,000		△1,535,000
当期純利益					19,912,489	19,912,489		19,912,489
当期変動額合計				153,500	18,223,989	18,377,489		18,377,489
当期末残高	30,700,000			4,705,000	335,068,511	370,473,511		370,473,511

	利　益　剰　余　金　の　内　訳			
	利　益　準　備　金	別　途　積　立　金	繰越利益 剰余金	利　益　剰　余　金 合　計
当期首残高	4,551,500	10,000,000	306,844,522	321,396,022
当期変動額				
剰余金の配当	153,500		△1,688,500	△1,535,000
当期純利益			19,912,489	19,912,489
当期変動額合計	153,500		18,223,989	18,377,489
当期末残高	4,705,000	10,000,000	325,068,511	339,773,511

監 査 報 告

私、監査役は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの
第21期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本変動計算書、個別注記表、
事業報告および、附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和6年5月27日

株式会社 どまんなか たぬま
監査役 石原 一行 ㊟

報 告 書

前記のとおりご報告申し上げます。

令和6年6月25日

株式会社 どまんなか たぬま
代表取締役社長 篠原 敏秀
取 締 役 松本 常治
取 締 役 佐瀬 芳治
取 締 役 相子 正幸